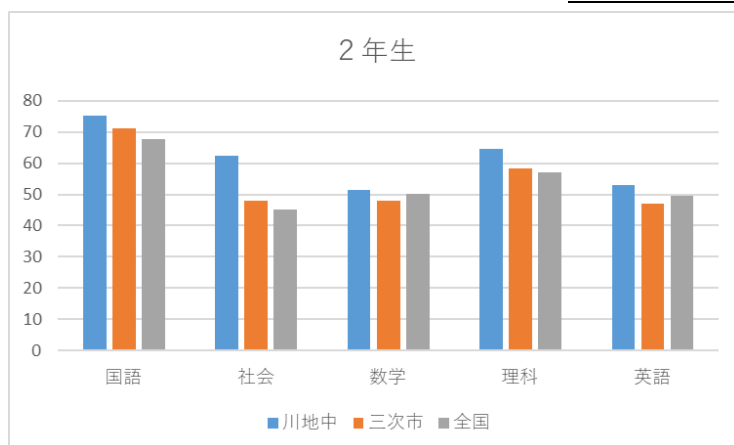


令和5年度三次市学力到達度検査の結果

三次市立川地中学校

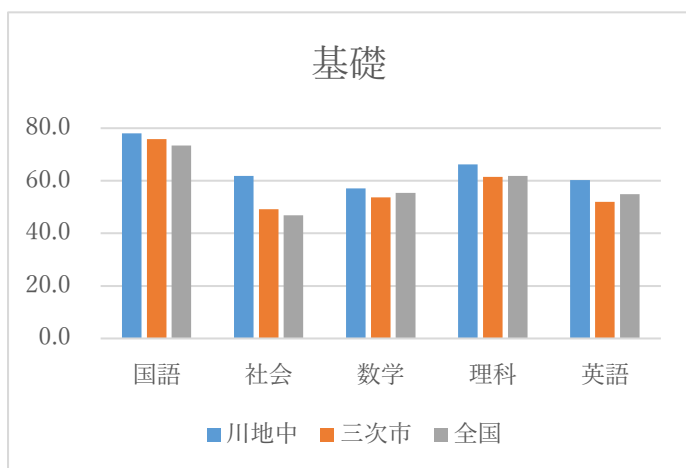
令和6年1月11日、12日に、1年生2名、2年生17名が受検。 ※1年生は母数が少ないため、2年生の結果のみ公表します。

●各教科（国語、社会、数学、理科、英語）※棒グラフは左から、川地中、三次市、全国の数値

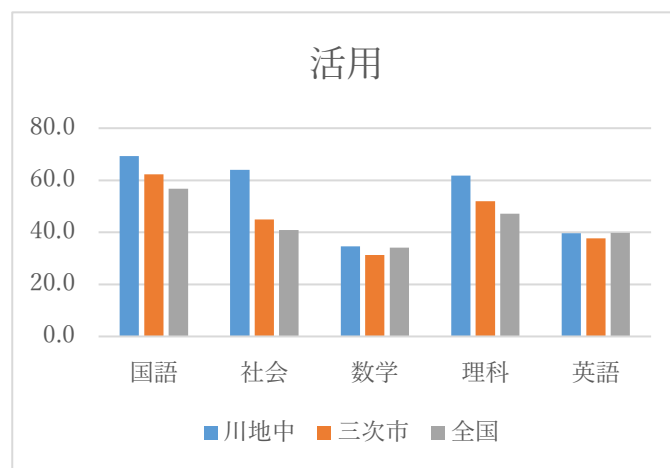


	国語	社会	数学	理科	英語
川地中	75.2	62.4	51.5	64.7	52.9
三次市	71.3	48.1	48.1	58.3	47
全国	67.8	45.2	50.1	57	49.5

2年生は、すべての教科で全国平均を上回った。国語が7.4pt、社会が17.2pt、数学1.4pt、理科が7.7pt、英語が3.4ptそれぞれ全国平均より上回る良好な結果であった。



	国語	社会	数学	理科	英語
川地中	78.1	61.8	57.1	66.2	60.3
三次市	75.8	49.2	53.7	61.5	52.0
全国	73.4	46.8	55.4	61.9	54.9



	国語	社会	数学	理科	英語
川地中	69.3	64	34.6	61.8	39.6
三次市	62.3	45	31.3	51.9	37.7
全国	56.7	40.9	34.1	47.1	39.8

基礎の力をみとる問題の正答率は、すべての教科が全国平均とほぼ同じか上回っている。各教科で身に付けなければならない力はおおむね身に付いていることが分かる。

活用する力を問題も同様に、ほとんどの教科が全国平均とほぼ同じか上回っている。正答している生徒の解答を見ると、文法や用語、単語、実験操作など知識に関する力はよく身に付いていることが分かる。しかし、必要な情報に着目して内容を解釈することや複数の資料から必要な情報を取り出し整理することが必要な問題の正答率は低く、課題がみられる。この課題はいずれの教科にも共通して見受けられ、文章やグラフ、図などの資料から情報を整理する力の育成が重要な課題としてあげられる。

活用する力の育成にあたっては、単に記憶することや繰り返し機械的に問題を解く学習活動に偏らず、日常生活と関連させて知識を用いることが大切である。また、そのような問題解決の学習過程のなかで、確実な基礎的な内容の習得も図りたい。総合的な学習等で教科横断的な学習場面を工夫する必要もある。またインプットと連動したアウトプットを重視し、表現力を向上させる授業改善等をすすめることが大切である。